

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 07 月 31 日	
所属部局・職	京都大学、霊長類研究所・博士課程
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国、ルオー学術保護区、ワンバ村
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ボノボメスの集団間移籍に関する発達学および社会生態学的な至近要因
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 02 月 01 日 ~ 平成 29 年 07 月 24 日 (180 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学、Wamba Committee for Bonobo Research (WCBR)、古市剛史教授 Center of Research for Ecology and Forestry (CREF)、Jaque Batuafe Bakaa
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。

(研究概要) : ボノボメスの集団間移籍に関する研究

社会性動物における「集団間の移籍」は、近親相姦を回避し個体群の遺伝子流動を促すもっとも重要な社会的機構の一つである。移籍する性の偏り(オスとメスのどちらが出自集団を離れ、どちらが留まるか)は、単位集団の個体間の血縁関係の様式を決定する。多くの哺乳類では、集団内にメスの血縁が維持される「母系社会」が普及しているが、霊長類のヒト科およびクモザル科では、メスが移籍する「父系社会」がみられる。面白いことに、移籍して子どもを産んだメスは、再び他集団に移籍することはほとんどない。しかし、寿命が長くサンプル数が限られる大型霊長類における「移籍」の研究は難しく、メスの集団間移籍における戦略(適応的な生活様式や行動)は、まだ不明な部分が多く残っている。私は、大型類人猿の移籍の至近的要因を明らかにすべく、父系社会を形成する霊長類種で例外的にメスたちに高い凝集性・社交性がみられる「ボノボ」を対象に、発達学的・社会生態学的な研究を行っている。

(野外調査) : 2017 Feb ~2017 July

「移籍」の発現は、「性・社会的な成熟」と「社会生態学的な環境」要因が複合的に影響していると考えられるため、移籍前後のメスの社会性と生理状態の継続的な調査が必要である。私は、コンゴ民主共和国、ルオー学術保護区、ワンバ村に生息する野生ボノボ集団を対象に、未成熟メス個体の「尿試料の採取」と「行動観察」を実施した。今野外調査は、本研究4年6度目となる終盤のデータ収集の機会であった。私は、2つの集団(E1, PE)のボノボを合計865時間観察し、尿試料を474サンプル収集した。これまでの総観察時間は3,215時間、総尿試料は1,138サンプルになる。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

(ボノボ集団の動態)

E1 集団と PE 集団の日常的な個体出席表の記録により、集団の動態（移出、移入、初産、死）は長期的に記録されている。集団間の出会いを通して、6 歳のコドモメスが E1 集団から移出した。彼女は、母親とは異なる Party で遊動する頻度が多くなっており、自活の段階に達していたと考えられる。この例は、これまでに移出した 5 個体の傾向と一致する。

PE 集団に一時的（1 日～1 週間）に滞在する若メスが観察された。この若メスは、PE 集団の隣接集団である PW 集団からやってきたのだが、PE 集団と PW 集団間の移出入を何度か繰り返したのちに、集団間の出会い時も移籍を行わず、PW 集団に定着するようになった。若メスが複数集団に繰り返し訪問することは知られていたが、このような例から、コドモを産むある程度前には一時的訪問することはひとつの集団に「定着」すると考えられる。

E1 集団に移入した若メス 2 個体が初産を迎えた。推定初産齢はそれぞれ 10 歳と 15 歳と考えられる。前調査期間には、推定 11 歳で初産を迎えた若メスが観察された。また、推定 15 歳で出産したその個体は、推定 13 歳時点で流産が確認されている。ボノボの平均初産齢は 14.2 歳と報告されているが、ワンバにおいて若年の初産の例が集まり始めた。

(Picture)



グルーミングを交わすボノボメスたち



若メスボノボのアカンボウ

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ワンバのフィールドアシスタント

(謝辞)

本調査を実施するにあたり、PWS リーディングプログラムより多くのサポートを頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。また、WCBR の運営を担う坂巻哲也さん、CREF 職員の Jaque Batuafe Bakaa さん、フィールドアシスタントはじめに、フィールドでお世話になった多くの人に感謝申し上げます。